

殺菌剤

石原フロンサイド粉剤



殺菌剤分類

29

農林水産省登録	第17559号
有効成分	フルアジナム・・・0.50%
性状	類白色粉末45 μ m以下
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
有効年限	5年
包装	3kg × 8袋 20kg × 1袋

特長

- ✓ 広範の病害にすぐれた効果
あぶらな科作物の根こぶ病、ばれいしょのそうか病、粉状そうか病、ねぎの白絹病、レタスのビッグベイン病等の広範の病害に有効な土壌殺菌剤です。
- ✓ 菌密度低下効果
根こぶ病の休眠胞子に対して殺菌的に作用するため、徐々に菌密度を低下させます。
- ✓ すぐれた残効性
土壌処理後、長期間にわたり根こぶ病による被害を抑えます。
- ✓ 低濃度で安定した効果
有効成分が0.5%と低く、10 アール当たり投下有効成分量が0.15 ～ 0.2kg（全面土壌混和の場合）と少量で効果を示します。
- ✓ 根こぶ病防除では石灰類との併用で、より防除効果が高まります。
- ✓ 土壌中で適度に分解するため、水稻、野菜等の後作物には、ほとんど影響がありません。
- ✓ 蒸気圧が低く、空気中への揮散はほとんどありません。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	10アール当り使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数	
ばれいしょ	そうか病 粉状そうか病	30～40kg	植付前	1回	全面土壌混和	6回以内 (種いも浸漬は1回以内、植付前の土壌混和及び植付時の植溝散布は合計1回以内、植付後の散布は4回以内)	
かんしょ	基腐病	40kg				3回以内 (植付前は1回以内、植付後は2回以内)	
キャベツ	根こぶ病	15～20kg	は種又は定植前	2回以内 (苗床では1回以内、本圃では1回以内)	作条土壌混和	3回以内 (苗床では1回以内、本圃での土壌混和は1回以内、土壌散布は1回以内)	
		30～40kg					
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病	40kg			全面土壌混和		
カリフラワー ブロッコリー	根こぶ病	15～20kg		1回	作条土壌混和	1回	
		30～40kg			全面土壌混和		
なばな類		15～20kg			作条土壌混和		
		30～40kg			全面土壌混和		
メキャベツ かぶ		30～40kg			全面土壌混和		
非結球あぶらな科葉菜類 (ケール、こまつな、みずな、のぎわな、なばな類を除く)							
こまつな	根こぶ病 立枯病 (リゾクトニア菌)	30kg			は種前		
みずな	根こぶ病	30～40kg			は種又は定植前		作条土壌混和
のぎわな		20kg					
		15～20kg					
はくさい	根こぶ病 黄化病	30～40kg				全面土壌混和	
レタス 非結球レタス	すそ枯病 ビッグベイン病	30kg					
ねぎ	白絹病 小菌核腐敗病	15kg	土寄せ時 但し、収穫21日前まで		2回以内	株元散布	2回以内
たまねぎ	黒腐菌核病 紅色根腐病 べと病	40kg	定植前	1回	全面土壌混和	7回以内 (全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内)	
にら にら (花茎)	白絹病	20kg	収穫30日前まで		株元散布	1回	
てんさい	叢根病	育苗培土1kg当り5～10g	は種前		土壌混和	5回以内 (は種前の土壌混和及び苗床灌注は合計1回以内、株元散布及び散布は合計4回以内)	
らっかせい	白絹病	20kg	収穫45日前まで		株元散布	1回	
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	30～40kg	は種前		全面土壌混和		
チューリップ	葉腐病 条斑病 微斑モザイク病		植付前				
	ゆり	茎腐症 (リゾープス菌による)					40kg

※本内容は2025年11月12日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤を使用する場合、砕土をよく行った後所定量の薬剤を均一に散布し、土壌と十分混和すること。なお、降雨直後の処理は混和むらの原因となるのでさけること。
- 根こぶ病を対象に本剤を多量に使用すると、初期生育が抑制される場合があるので、適用薬量の範囲で使用する事。
- はくさいの黄化病、ばれいしょのそうか病、粉状そうか病、キャベツの苗立枯病（リゾクトニア菌）、菌核病、レタスのビッグベイン病、たまねぎのべと病に対する本剤の全面土壌混和及びねぎの小菌核腐敗病に対する土寄せ時株元散布は、多発生条件では効果が劣る場合があるので注意すること。
- レタスの茎葉に本剤が多量にかかると薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合は注意して散布すること。
- てんさいに使用する場合、誤って多量に処理すると初期生育が抑制されるおそれがあるので適用薬量の範囲を厳守すること。
- みずかけなに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヶ月以降を厳守すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項



- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- 苗床で本剤を使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意すること。

魚毒性等

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。